

安心と快適な水供給のために 新越戸水道施設完成



大東町の市街地と西部及び北部を給水区域とする配水池（大東町山田）と浄水場（大東町大東）の水道施設がこのほど完成し、6月23日、通水式とその完成を祝う式典を行いました。

新越戸浄水場は、阿用川、赤川や地下水などを水源とし、セラミック膜を利用した「膜ろ過装置」を備え、1日に4千m³の水量を高度浄水することが可能です。そして、浄水された水道水は、完成した新越戸配水池を経由し、区域内2,200戸へ供給されます。同配水池は、衛生的に優れたステンレス素材でできているほか、耐震型であるため緊急時の飲料水を確保することもできます。

式には、市や地元の関係者など80人が出席し、市の担当者が施設等の説明をした後、テープカット、浄水行程や設備が紹介してある案内看板の除幕などで施設の完成を祝いました。

また翌24日、地域のみな



三刀屋小学校区が、平成18年度の「地域安全安心ステーション」事業のモデル区域として、警察庁からの指定を受けました。



防犯活動の意識高まる

安全安心な地域をめざした取り組み

今年度のモデル区域には県内で2地区が指定されました

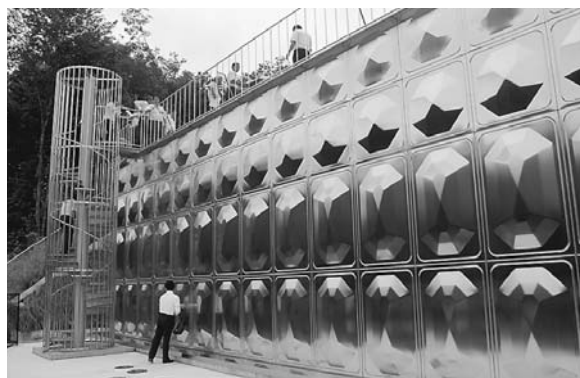
同事業は、地域住民による自主防犯活動の推進を目的としており、三刀屋小学校区内の安全パトロール隊子どもサポーターズ」の声かけ運動や通学路の立番活動などの活動支援をしていくものです。

6月19日の出発式では、警察庁から貸与された黄色のユニフォームを着た子どもサポーターズ

タイズのメンバーらが、児童たちに今後の防犯に向けた取り組みや地域安全マップの説明などを行い、安全安心の地域づくりに向け気持ちを新たにしました。

一方、佐世地区では、7月4日から青色回転灯を車両に装備しての自主防犯パトロールがはじまりました。

市内初となるこの取り組みは、佐世地区社会福祉協議会がつくる「佐世子ども見守り隊」が推進するもので、定め



さんを対象にした「浄水場見学会」には、約120名が訪れ、見学者は熱心に説明を受けました。



7台のパトロール車両が出発しました

られた講習を受け、パトロール車両を警察署に申請し、許可を得た後の運用となります。

「佐世子ども見守り隊」では、登下校時などに学校周辺・通学路を中心に、青色回転灯装備車両でのパトロールを実施していきます。

このほか、雲南市では、雲南警察署や奥出雲町、飯南町と協力し、7月3日から、不審者情報などをメールで学校や公民館など関連施設へ配信する取り組みもはじめています。



6月19日の初回講座の様子

身体教育医学研究所うんなん 地域運動指導員養成講座開講



今後地域運動指導員は研究所で登録され、市が開催する転倒予防事業等の指導員として活躍していきます。

身体教育医学研究所うんなんでは、高齢者の介護予防、体力づくり活動などを支援する「地域運動指導員」の養成講座を6月から7月にかけて実施しました。これにより、37名の地域運動指導員が誕生いたしました。

全6回となる講座では、転倒の危険性の測定や評価の仕方、救命講習、運動プログラムの作成方法について、講義や実技指導を受けました。

日本と世界の懸け橋に 青年海外協力隊員の藤原さん出発



青年海外協力隊員としてアフリカへ派遣される藤原由里さん（大東町小河内）が6月22日、出発あいさつのため速水市長を表敬訪問しました。

藤原さんは6月下旬からアフリカのガーナに理数科教師として派遣され、任期は2年間。現地では公立のアカチ教員養成校（日本の大学に相当）で、生徒たちに理科を教えることになっています。

藤原さんから抱負などを聞いた速水市長は「異国の地での新しい挑戦ですが、体に気をつけてがんばってください。国際貢献・国際交流活動を活かした活躍を期待しています」と激励しました。

「現地では生徒たちに理科の楽しさを伝えたい。そして、ガーナでの経験を日本の子どもたちに伝えていきたい」と話してくれた藤原さん。『将来の夢』実現のためにもがんばってください。